

ここが聞きたい!
いっぱん

質問

勝田町政2年間の自己評価は

内田雅人 議員

町長 掲げたスローガンは充分推進した



問 勝田町政一周年目の中間地点となる今、就任時に掲げられた町政運営の重点項目についてどう自己評価されるのか。まず「元氣なまちづくり」について。

答 産業振興による雇用の確保と定住を推進してきた。事業者への支援や定住フェアへの参加、観光文化協会の体制強化、農業での雇用創出、電力小売会社の設立などを進めてきた。

問 「安心のまちづくり」については。

答 保健と医療、福祉の充実と、教育、子育ての支援だ。医師の確保、高齢者へのサポート、学校への特別支援員の増員、子どもの保育料、医療費

の軽減などを進めてきた。

問 「笑顔のまちづくり」については。

答 道路整備や公共施設の耐震化などの社会インフラの整備と、地域リーダーの育成だ。

問 財政運営については。

答 改善しているが、全国的に見ると実質公債費比率も将来負担比率もまだ高い状況だ。地域経済にも配慮しながら健全な財政運営に努める。

問 総じて、この2年間で元氣、安心、笑顔が奥出雲町に増えていると感じるか。

答 スローガンとして掲げている。私なりに充分推進してこれたと思うている。

問 副町長は就任時に人材と観光に可能性を感じるとのことだったが2年間の自己評価は。

答 松浦副町長

産業振興と人材育成に力を入れてきた。奥出雲らしさを生かした新規事業に着手でき、これらは活性化の基盤となり得る。

問 一周年目の後半戦にこの総括を生かして欲しい。サイクリングターミナルは来年4月にリニューアルと聞いているが、町民にとっても観光面でも魅力ある施設にしなければならぬ。方向性と今後のスケジュールは。

答 奥出雲に多米、奥出雲酒造と連携し、特産品を活用した奥出雲らしいレストランにし、来春のリニューアルを目指す。

問 施設の全体的な方向性は、「誰に、何を、どのように」のコンセプトを明確にすべきだ。今どこまで詰められているか。

答 プロジェクトチームの中で充分検討している。

問 現在12人の地域おこし協力隊のメンバーがそれぞれのセクションでがんばってくれてるが、充分に力を発揮できる環境か。移住者の人生を預かる責任と配慮が採用した町にはある。

答 隊員をサポートする総括アドバイザーを配置し、町三役との意見交換会なども開催して、町としても隊員の能力を発揮できる環境づくりを行っている。

問 3年間の結果として定住を選んでもらう、そういう奥出雲町での活動であって欲しい。実際奥出雲町で生計を立て定住するハードルは高い。起業や就職につながり定住を促す施策や支援はあるか。

答 厳しい面もあるが、隊員の起業等に向けた取り組みを検討し、定住につなげたい。



能力を発揮しやすい環境づくりを